

ぎふ感染症かわら版

平成 30 年 3 月 1 日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



平成 30 年 3 月 1 日～3 月 7 日は「子ども予防接種週間」です

お子さんの予防接種はお済みですか？

保育所や幼稚園、小学校などでの生活が始まると、
多くの人と身近に接するため、様々な感染症にかかる機会も多くなります。
4 月からの入園・入学に備えて、ワクチンで防ぐことができる感染症は
予防しておくことが大切です。



この機会にもう一度、**母子健康手帳**で**お子さんの予防接種の記録を確認し**、
受け忘れがある場合は、**早めに接種**を受けましょう。

特に**麻しん・風しん第 2 期**の予防接種（年長児のお子さんが対象）は、
定期接種の期間が**3 月 31 日まで**となっていますので、
まだ接種を受けていない方は、**確実に接種を終え**ましょう。



小学校入学までに受けることができる主な予防接種

定期接種 … 予防接種法に基づいて行われる予防接種です。

定められた期間内であれば、ほとんどの市町村で無料（公費）で受けることができます。
市町村の案内にしたがい、決められた年齢で決められた回数を接種しましょう。

ヒブ（Hib）

★2 か月～5 歳未満

小児用肺炎球菌

★2 か月～5 歳未満

B 型肝炎

★1 歳未満

水痘（みずぼうそう）

★1 歳～3 歳未満

BCG

（結核）

★1 歳未満

四種混合

（DPT-IPV：ジフテリア・
百日咳・破傷風・ポリオ）

★3 か月～7 歳 6 か月未満

MR（麻しん風しん混合）

★第 1 期：1 歳～2 歳未満

★第 2 期：小学校就学前 1 年間（年長児）

日本脳炎

★第 1 期：6 か月～7 歳 6 か月未満

（★第 2 期：9 歳～13 歳未満）

任意接種

… 定期接種以外の予防接種です。
保護者の希望で、かかりつけ医と相談して
接種することができます。
基本的に有料（自己負担）ですが、
費用の助成を行っている市町村もあります。

ロタウイルス

◆生後 6～32 週（24 週）
第 1 回は、遅くとも
生後 14 週 6 日までに接種

おたふくかぜ

◆1 歳以上

★印は定期接種の年齢です。接種回数と接種の間隔はワクチンの種類により異なります。

定期接種

ワクチンで予防できる感染症をピックアップして紹介します



麻しん：MR ワクチン

麻しんウイルスによって起こる感染症で、人から人にうつります。主な症状は高熱や咳・鼻水、発疹などですが、肺炎や脳炎を起こすこともあります。感染力が非常に強く、空気感染によっても広がるため、ワクチンが唯一の予防法です。近年では、海外で感染して帰国した人から、国内で麻しんの免疫のない人に感染が広がり、大きな集団感染となった例が多く報告されています。

風しん：MR ワクチン

風しんウイルスによって起こる感染症です。咳などのしぶきによる飛沫感染で、人から人にうつります。主な症状は発熱、発疹、リンパ節の腫れで、まれに脳炎などを起こすこともあります。また、妊婦が妊娠初期に感染すると、眼や心臓、耳などに障害をもつ子どもが生まれることがあります（先天性風しん症候群）。2012～2013年に国内で大きな流行となり、この時は、予防接種を受ける機会がなかった成人男性が多く風しんにかかりました。



ヒブ（Hib）感染症：ヒブワクチン

肺炎球菌感染症：小児用肺炎球菌ワクチン

それぞれ、インフルエンザ菌 b 型（Hib）、肺炎球菌という細菌による感染症です。主に飛沫感染でうつり、肺炎、髄膜炎、中耳炎などを起こします。症状がないまま鼻に菌を保有（保菌）しているお子さんも多くいますが、5歳未満で発病すると、重い症状となることがあります。特に髄膜炎は、難聴などの後遺症を残したり、死亡することもあり注意が必要です。

任意接種

おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）：おたふくかぜワクチン

ムンプスウイルスによる感染症で、耳の下（耳下腺）の腫れと痛みを特徴とします。無菌性髄膜炎などを起こすこともあり、中でも難聴は重大な合併症の一つです。感染力が強いため、ワクチンで予防するのが効果的ですが、任意接種であるため接種率は低く、国内では流行をくり返しています。県内でも2016～2017年に大きな流行となりました。5歳を中心に1歳から10歳代まで幅広い年齢でかかっていますので、かかりつけ医とよく相談して、ワクチンを接種することも考えてみましょう。



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

